GYインターンシップ体験記

派遣先：ECOSS（Ecotourism & Conservation Society of Sikkim) インド・シッキム州

派遣時期：2024年2月

私がインターンシップを行ったインドのECOSSは、エコツーリズム推進のための様々な活動を行っているNGOです。ECOSSが活動しているシッキム州は、インドでも有数の自然環境を持ち、観光地として有名です。この地域においては、観光業の発展による利益形成と環境保全のバランスを取ることが最大の目的となっています。そのためにシッキムではエコツーリズムを最適な観光形態としており、ホームステイを通して自然環境の保護を行い、その魅力を自然保護に関心がある旅行客に伝えることを目標としています。本インターンシップの目的は、エコツーリズムがどのように地域経済の利益想像に寄与しているのかを学ぶ事でした。そのために、エコツーリズムを推進している各省庁へのインタビューとホームステイをすることによって、政策を策定する側と実行する側の両方を観察し、シッキムの現状や今後の課題を学びました。これらの体験を通して、エコツーリズムを成り立たせ、持続可能なものにしていくためには地域経済への還元が最優先事項であるという事を学びました。政策決定者と政策実行者が異なる自然保護において、実行者である自然に近い地域の協力を得られるかどうかは、非常に重要な点です。そしてシッキムでは、農村支援やホームステイの指導などを行うことで自然保護と観光業による経済発展を両立させています。このような考え方はどの国でもできるわけではありませんが、国際社会が抱える問題を解決するためには必要な視点であると思っています。そして、インドというこれまでとは全く異なる環境を経験したことで、異文化理解に終わりがないという事を再確認することができました。短い大学生活の中で、アメリカだけでなくインドにも訪れることができ、普通の大学生ではできないような学びを得ました。（教養学部3年/GY13期生　佐藤稜太）

****

****

派遣先：JECSA Cambodia　カンボジア

派遣時期：2023年9月

私は大学3年生の9月に2週間、カンボジアでホームステイ型の英語教師インターンシップを行いました。インターンシップは自分の好きな内容のものを選べますが、英語教師を選んだのは自分が主体的に動き続けられると考えたからです。現地では、私の予想以上に主体性と精神力が求められ、辛いことも嬉しいこともたくさんありました。まず、生活環境が日本とは全く異なる環境でした。毎食お腹を壊さないか心配しながらごはんを食べ、綺麗とは言えない水で体を洗い、ずっとステイ先の子供と一緒で休まる時間がない中で業務にあたりました。最初は辛い気持ちを吐き出す場所がなかったのですが、温かいホームステイ先の方の計らいで他の日本人と話す機会をつくってくださったので、前向きに頑張ることができました。ステイ先では、一緒にご飯を作ったり、朝起きて庭の掃除をしたり、ステイ先の親戚に会うなど家族の一員として迎え入れてもらい、本当の意味で現場を経験することができました。業務面では、小学2～6年生を担当し、児童がクメール語を母国語とする中、英語を使って英語を教えることに難しさを感じる日々でした。児童に関する情報がない中で、PDCAサイクルを回しながら状況に応じて臨機応変に対応していました。業務が大変でも、最後まで頑張れたのは、自分の頑張りが少しでも子供の英語力の成長に繋がれば良いなという願いと、子供の元気な姿があったからだと思います。元気いっぱいで体力が無限にある子供たちに日々圧倒されていましたが、英語が大好きな児童が多かったおかげで、毎日「Teacher!」と駆け寄ってくれ、プレゼントをもらい、ファンサービスをしているような気分になれるほど人気者になれました。全体を通して、カンボジアで生活することで自分に自信をつけることができたと思います。辛い環境の中でも、上手く自分と付き合いながら子供たちの笑顔を力にやり抜くことが出来ました。インターンシップを終了して時間がたった今だからこそ、誰にでもできるわけではない素晴らしい経験をしたのだと捉えるようになりました。大学で途上国について勉強する身として、GYに背中を押してもらいながら渡航し、貴重な経験ができて本当に良かったなと感じています！

（教養学部3年/GY13期生　鈴木詩織）